

愛宕塚古墳(下野市)

都賀郡国分寺地区の愛宕神社





左の石柱に「村社 愛宕神社」、右の石柱には「史跡 愛宕塚古墳」とある





6世紀末から7世紀前半のころの前方後円墳という

栃木県指定 史跡

あたごづかこふん
愛宕塚古墳 | 基

所有者 愛宕神社

昭和53年9月8日 指定

墳丘全長 約53m 後円部径 約32m
前方部径 約36m 高さ 約5m

この古墳は、西南に面した前方後円墳で、基壇の上
に墳丘を築き、基壇の裾部に周溝をめぐらしています。
墳丘南側のくびれ部分には、愛宕神社が祀られてい
るため一部が削られています。概して保存のよい古
墳です。

墳丘形態は、後円丘と前方丘の高さは等しく、全長
に対し後円径と前方径の和が若干大きくなっています。
このことから、本墳の築造期は、6世紀末から7世紀
前半のころと推定されます。

栃木県教育委員会・国分寺町教育委員会

正面が愛宕神社の社殿





史跡 愛宕塚古墳

愛宕塚古墳は、神代文書に「愛宕山に於ける古墳」と記述され、古墳時代の中期（約5世紀後半）に築かれたと推定される。古墳の規模は東西約10メートル、南北約5メートルで、墳丘はほぼ正方形の形状を呈している。古墳の内部には、石室が設けられており、石室内には土葬された人骨が出土している。また、古墳の周囲には、古墳時代の土器や埴輪などの遺物が散見されている。愛宕塚古墳は、愛宕山地区の歴史を伝える重要な史跡として、現在も大切に保存されている。



愛宕山は、神代文書に「愛宕山」と記述され、古墳時代の中期（約5世紀後半）に築かれたと推定される。古墳の規模は東西約10メートル、南北約5メートルで、墳丘はほぼ正方形の形状を呈している。古墳の内部には、石室が設けられており、石室内には土葬された人骨が出土している。また、古墳の周囲には、古墳時代の土器や埴輪などの遺物が散見されている。愛宕山は、愛宕山地区の歴史を伝える重要な史跡として、現在も大切に保存されている。

史跡 愛宕塚古墳

愛宕塚古墳^{あたごづかこふん}は、西南に面して築造された前方後円墳^{ぜんぽうこうえんふん}です。後円部に比べ前方部が発達して大きいという特徴を有しており、古墳時代後期に築造されたものと推定されます。


墳丘^{ふんきゅう}は逆盾形の基壇^{きだん}の上ののり、基壇の外側には大きな周濠^{しゅうごう}がまわっています。この基壇と周濠は、古墳をさらに雄大なものに見せています。

埋葬施設^{まいそうしせつ}は、その一部が前方部のくびれ部付近に認められますが、詳細については明らかにされていません。おそらくは、大きな石を用いた横穴式石室^{よこあなしきせきしつ}であろうと考えられます。

一般に、古墳時代も後期になると、古墳の規模は小さくなり、群集して築造されるようになりますが、この地域では、本墳をはじめとし、吾妻古墳^{あづまこふん}や車塚古墳^{くるまづかこふん}、丸塚古墳^{まるづかこふん}などのような大形の古墳が引き続き築造されています。

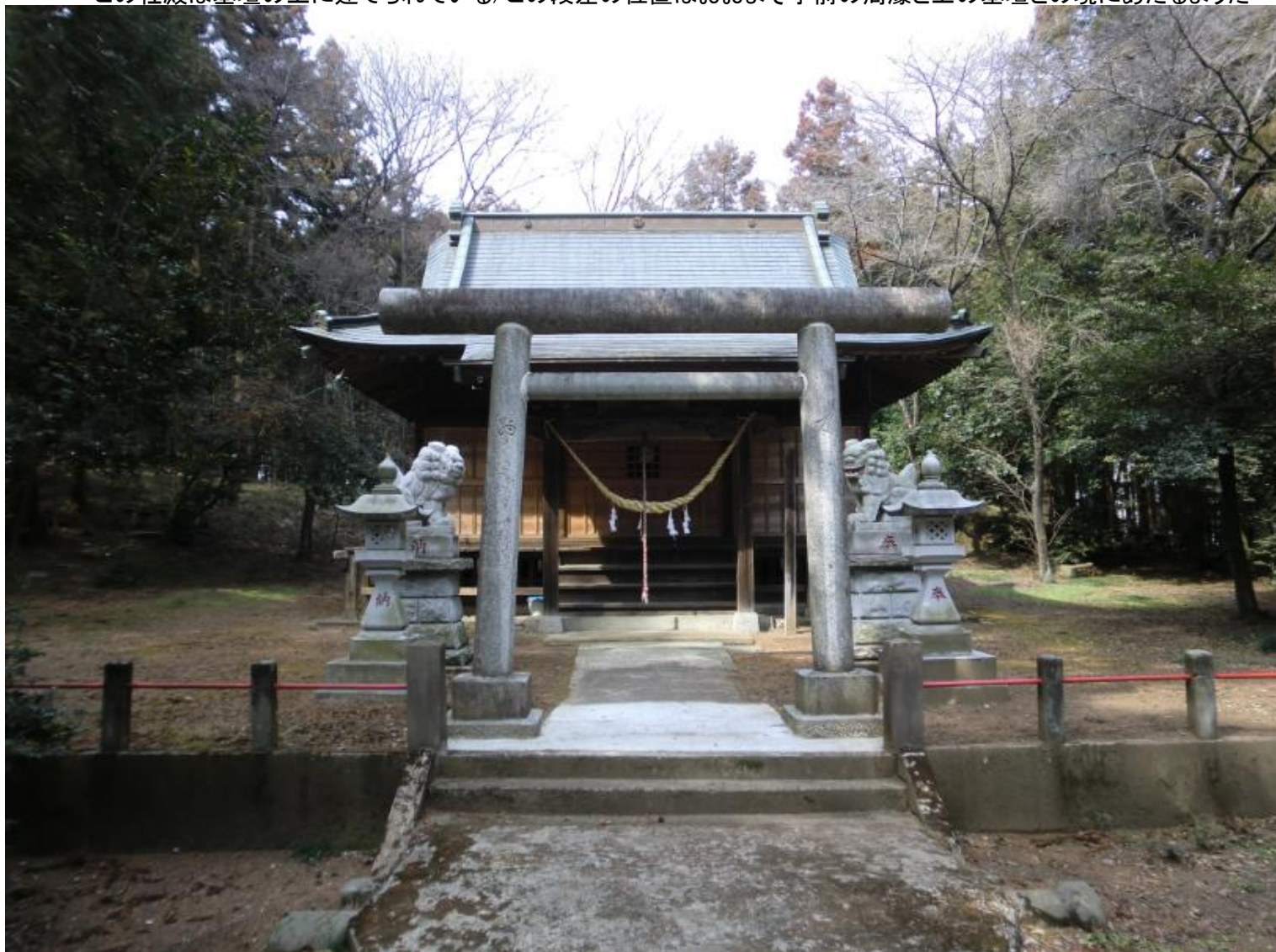
墳形	前方後円墳	全長約50m
前方部	幅約26.5m	高さ約3.3m
後円部	直径約22m	高さ約3.7m

昭和53年9月8日 県指定

 栃木県教育委員会



この社殿は基壇の上に建てられている/この段差の位置はおおよそ手前の周濠と上の基壇との境にあたるようだ



正面は墳丘の前方部、右手の後円部にかけて「くびれ」が見られる



前方部を見る/手前には石造物が並べられている/右手の石段がある辺りが「くびれ」部分



墳丘上を前方部から後円部方向に歩く





祠のある辺りは「くびれ」部分





後円部を基壇上から見る



こちらにも石造物が並べられている



後円部裾を見る



拝殿左側面



正面は本殿



「くびれ」部分にある石段と祠



境丘上から社殿を見る



本殿右側面



お約束の再利用材の置き場



境内から鳥居を見る/再利用材の置き場の辺りまでは周濠であったのだろうか



都賀郡国分寺地区の後期前方後円墳

こくぶんじ あたごづか
国分寺愛宕塚古墳

しもつけしこくぶんじ
下野市国分寺にあります。二段築成の前方後円墳で、前方部を西南西に向けています。墳丘第一段目に幅広い平坦面（基壇）を持ち、墳丘の全長は78 m、後円部径52 m、高さは前方部、後円部とも5 mです。周溝を含めると、全長100 mを超える大型古墳です。

埋葬施設は御鷲山古墳などと同様に、後円部ではなく前方部のくびれ部寄りにあります。発掘調査などはされておらず、天井石と見られる凝灰岩が露出しているだけです。詳しいことは分かりませんが、凝灰岩を使った横穴式石室と見ていいでしょう。埴輪は伴わないと見られることや、以前に採集された須恵器台付壺・甕・子持壺などから、古墳が築造されたのは6世紀末葉と考えられます。なお国分寺愛宕塚古墳の北東300 mの

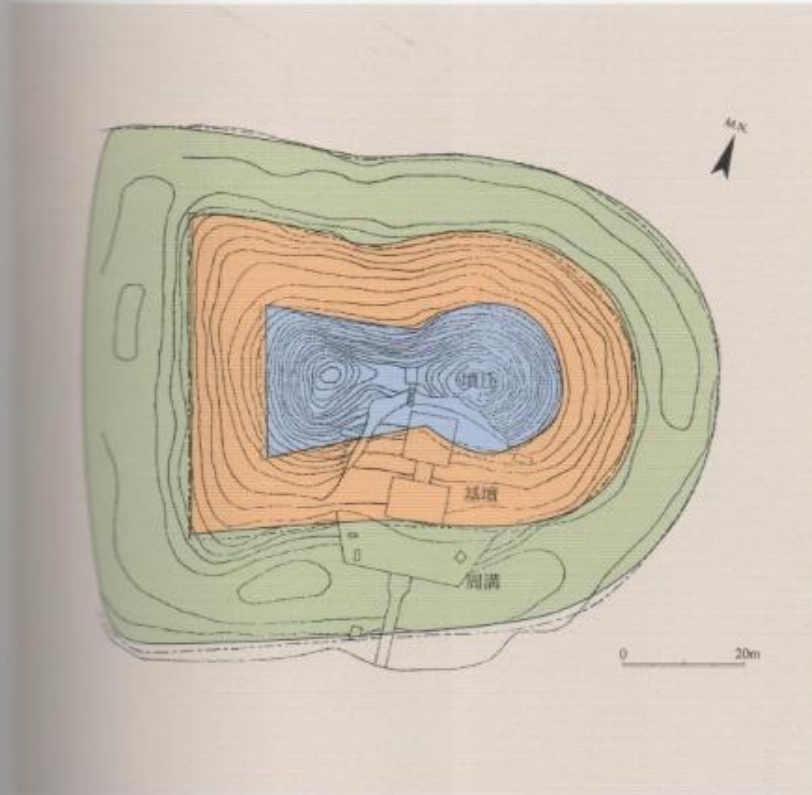
さんのうづか
山王塚古墳があります。山王塚古墳も6世紀末葉の古墳であり、ともに古代都賀郡国分寺地域の最後を飾る前方後円墳だといえます。



ところには、全長 90 m と推定される前方部のく
びれ部寄りに横穴式石室を持つ大型前方後円墳、

11. 国分寺愛宕塚古墳

写真右端に見えるのは、基壇部分に作られた神社の社殿です。



12. 国分寺愛宕塚古墳 測量図



13. 須恵器台付壺・甃・子持壺

参考ホームページ」

<http://sgkohun.world.coocan.jp/totigi/kokubun/atago.html>

<http://10.pro.tok2.com/~a11234842/977.atago.html>

<http://kofunnomori.web.fc2.com/tochigi/kokubunji/atago.htm>



栃木県下野市の



栃木県下野市の